

---

# 東方龍神録

yousyun1996

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方龍神録

### 【Nコード】

N7874X

### 【作者名】

youssyun1996

### 【あらすじ】

拳咲 龍神

それが俺の名前。俺は金髪の女性に連れ去られ、気付いたら森の中で…はつきり言って…最悪の休日になってしまった。

果たして龍神はどうなるのか？

今回も同じ東方小説です。東方キャラ崩壊あるかもです。ご注意を

… ハーレム有り、コメディ有り、パロディ有りです。

第1話 知らない世界に俺はいた。(前書き)

どうも、yousyunです。

新作書いちゃいました。

龍が好きなので、書いちゃいました。  
ではどうぞ。

## 第1話 知らない世界に俺はいた。

まず自己紹介をしておく…

俺の名前は

拳咲 龍神 (けんざき りゅうじん)

15歳だ。

変な名前？そんなのはわかっている。

今俺は、幻覚を見ているのか？

そうなったのも今から…

今から1時間前…

俺は休日を有意義に過ごす…

つもりだった。

俺には友達がいらない。いるとしても、たまに会う幼馴染みぐらいだ。  
1ヶ月前に引越したんだ。

中3にもなつて、勉強もできない、友達もいない…

ああ…いつそのこと、死にたい。

この世界から抜け出したい。

？「なら、私達の世界にくる？」

一瞬、その姿を確認した。

帽子を被った金髪の長髪。

変な服を着た女性。

そして…

俺はその女性に連れ去られた。

気付いたら知らない森の中。  
と言っわけ…

龍「ここはどこだ？」

俺は歩いていた。  
ただひたすら、その先に道があると思ひ。

龍「おゝい！誰かゝ！」

当たり前、こんな森の中に人がいるわけ…

？「わはー。」

龍「？」

誰かの声がした。  
間違い無い。

人だ！

龍「おい！誰か！助けてくれ！」

必死に叫ぶ。このチャンスを逃したら、俺の人生は知らない森の中でENDしてしまう。  
それだけは嫌だ。だから、ただただ、  
叫ぶ。

？「ん？人間？」

龍「おい！助けてくれ！」

？「あは 人間だ」



俺の前に現れたのは黒服ドレスの少女。  
？何だ？地に足がついてないぞ？

龍「？」

？「あはは ねえ、あなたを食べてもいい？」

俺は耳を疑った。  
俺を…食べる？  
何を言っているんだ？

龍「あの…君は名前…何て言うの？」

俺はビビりながらそんな事を聞いた。  
逃げた方が良いのに、俺はバカだ。

？「私はルーミア、妖怪だよ。」

少女はニヤリと笑う。  
妖怪？絵本でしか聞いた事がないぞ？  
でも、本物なら…

ヤバイ！

•  
•  
•

？何でだ？何で俺の体が動かない？  
動け！動け！俺の体！動け！！！！

少女はゆっくりと近づいてくる。

もう…ダメだ、終わりだ。

まだやりたい事がたくさんあるのに。  
ここで死ぬなんて…

ル「いただきます？」

龍「うわあああああああ！！！！！！！！！！」

•  
•  
•

あれ？生きてる。

体もバラバラじゃない！

少女は口から血を流して倒れている。

龍「よ、よくわからないけど、助かった！」

俺は起き上がり、また歩きだす。  
と…

龍「光？」

俺は光に向かって、走る。  
そして…

バサーーン

龍「やった〜！！！！」

俺は森から抜け出した。

が、つかの間…

龍「何だ？これ？」

俺の目の前に紅い館が建っていた。

く続くく

第1話 知らない世界に俺はいた。(後書き)

ちなみに超絶で最狂の三人とのコラボは検討中です。

次回は 龍神…お前は一体…  
のような力が覚醒!

ではまた次回。

## 第2話 俺の力は龍の力？（前書き）

主人公の力がなんと…

ま、龍なんてわかる方も多いと思いますが…  
ではどうぞ。



## 第2話 俺の力は龍の力？

前回の俺は…

金髪の変な服の女性に連れ去られ、知らない森の中に。

歩いていると黒服の少女に食われそうになり

(決して変な意味では無い) 逃れ逃れて森を抜け、紅い館が現れた。

龍「あの〜…」

?「はい？」

門に人がいたので尋ねる。

龍「ここは…どこですか？」

？「ここは紅魔館ですが…」

龍「あなたは？」

？「私は紅　美鈴　（ほん　めいりん）　です。」

チャイナドレスの女の人是不思議そうに答える。

紅「あなたは？」

龍「お、俺は拳咲　龍神。迷ったんだ…」

少年説明中…

紅「そうなんですか…」

龍「お願いです…助けてください！」

紅「…わかりました、さあ、とりあえず、お入りください。」

龍「…美鈴さん…」

俺は紅魔館に入れてもらった。

龍「すごく広いですね。」

紅「そりゃもう、私だってここで長く働いているけど、今だに驚くんですよ。」

龍「はあ…」

？「美鈴、仕事をサボって何をやっているの？」

突然現れたメイド服の女性は美鈴さんに歩み寄る。

紅「あ、咲夜さん…」

龍「待ってください！」

？「誰？」

龍「美鈴さんは悪く無い、俺が頼んでここに入れてもらったんだ。」

？「美鈴、本当なの？」

紅「はい…実は…」

少女説明中…

？「…わかったわ…私は十六夜  
、お嬢様に頼んでみるわ。」  
咲夜 (いざよい さくや)

龍「ありがとうございます。」

紅「良かったですね。」

咲夜さんが頼んでくれたおかげでとりあえず、お嬢様？に会う事になった。

龍「お嬢様ってどんな人なんですか？」

咲「心配ないわ、カリスマがすごいだけ。」

龍「カリスマ…」

咲「ここよ。」

咲夜さんはデカイ扉を指す。

龍「デカイ…ですね。」

コンコン

咲「お嬢様、連れて来ました。」

？「入りなさい。」

ガチャッ！

咲「失礼します。」

俺も扉を押してみたが、思いのほか軽かった。

龍「あの…し、失礼します。」

？「どござ、座って。」

龍「あ、どうも。」

？「レミリア・スカーレットよ、あなたは？」

龍「拳咲　龍神です。」

レ「じゃあ、龍神、あなたにやってもらいたい事があるの。いいかしら？」

龍「は、はい！僕に出来る事ならなんでも。」

レ「妹と遊んでくれる？」

龍「遊ぶ…ですか？」

レ「フランク、いらっしやい。」

お嬢様がそう言つと、ドアから赤い服の幼女が現れた。  
そう言えば、お嬢様も幼女？



フ「お兄さんが遊んでくれるの？」

龍「うん。うん。」

フ「あはは 嬉しいな」

笑顔がかわいが背中に何かある。

龍「背中のそれは？」

フ「これは羽だよ、吸血鬼としての。」

今何て言った？吸血鬼？

フランは俺の手を掴み取り…

フ「あまり早く壊れないでね。」

フランはドアの中に俺を連れていった。

カチャ

龍「何を…」

フ「するんでしょ？弾幕ごっこ。」

龍「弾幕ごっこ？」

フ「行くよ?」

フランはその言いついでいきなむ…

ダッ

ダッシュで俺に近づいてくる。

龍「は、はあ…」

フ「それ!」

フリンは俺に拳を向ける。

龍「うわああああ!!!!!!!!!!」

俺は頭の中が真っ白になった。  
瞬間…

スパッ

俺はフリンの拳を止めていた。

フリン「？」

龍「・・・」

意識はあるが、どう見ても俺じゃない気がする。

ググッ

俺の手に自然と力が入る。

ヴォーーン!!!

俺の体は青い業火に包まれる。

龍「フウオオオオ…」

俺は…一体…

龍「ウウウオオオオオオオオオオ！！！」

ヴァー…ン！！！！

天の視点

龍神の姿は

青い皮膚、湧き上がる筋肉。

胸筋、腕、腹筋は8つに割れている。  
後ろには長さ1.5m程の尻尾、背丈は2mを軽く上回る。  
顔はあの、ドラゴン、龍の顔に…  
角は頭や背中に生え、手や足には鋭いツメ。  
特に足は人ではなく、獣の太い三本足。  
目もキリツと鋭く、黒い瞳が光る。  
口には牙では無い牙が見え、口を開けると牙が無い。  
首は人と同じで、限りなく人に近い龍に変わった。

龍「俺の名は龍神。名の通り龍の神だ。」

スバツ

龍神は凄まじい速さでフランに突っ込む。

フ「？」

龍「ふんっ？」

ズガッ！！！！

フ「あう……！！！！」

かなり大きい拳がフランの腹を打ち抜く。

龍「もう一発！！！！」

グリッ

龍神は拳をそのままにひねりを加え、さらに打ち込む。すると……



ビシューオーーン!!!!!!!!!!

フランの身体からトルネードが突き抜ける。

フ「ぐふ…げは…」

フランはこの一撃で口から血を吐き出し、白目で倒れ、気絶する。  
その後も若干の痙攣を起こす。

龍「やり過ぎたか…」

シューオーーン

再び青い業火が身体を包む。  
すると…

龍「あれ？一体何が？」

龍神は記憶が無いようだ。

レ「・・・」

咲「お嬢様、もしかしてあれを知っていて…」

レ「いいえ、彼が力を持っていたのは知っていたけど…まさか龍だったなんて…しかもフランを一撃で…」

龍神の視点

龍「俺は一体何を……」

俺はあの瞬間から記憶が無い。  
攻撃してきたフランが気絶している時点で何かあった筈……

ガチャッ

レ「龍神。」

龍「お嬢様、いや、レミリア、一体何があったのか教えてくれ。」

レ「あなたは龍になったのよ。」

続く…

## 第2話 俺の力は龍の力？（後書き）

龍神だけに龍に変身。

でも力が半端ない。

次回は龍神の紹介をします。  
ではまた次回。

## 拳咲 龍神のプロフィール（前書き）

作者「さあ、今回は拳咲 龍神の紹介をしていきますよ。」

龍「あの〜、紹介すると言っても、特に何も無いんだけど…」

作者「なら創り出すまでだ。」

龍「と言う事で、今回は俺の紹介をするそうです。ではどうぞ。」

## 拳咲 龍神のプロフィール

拳咲 龍神 (けんざき りゅうじん)

年齢：15歳

性別：男

身長：170cm

体重：55kg

若干の筋肉質の身体で、少々痩せている。  
性格はおとなしめで、たまにはしゃぐ。

170の長身+結構なイケメン  
だけどもテない。

頭が非常に悪く、数学は常に0点。

五教科で100が限度。

一番得意なのは美術で、絵がとても上手い。

ちなみにまだ中学3年。

学校の服装はブレザー！。

髪はストレートの長め。(全体的に)

友達がいない…

龍「…最後はダメ…」

作者「ゴメン…」

先祖が龍の神様であるらしい…

友達がいなのはそのせいもあると…

(龍は孤独を好む 数が少ないから の二つ)

龍神は龍に変身できる。

(本人に変身時の記憶が残らない)

龍になると声が低くなる。

(体が変化を起こすのが理由。)

龍の時は、アニメ 北 の拳の主人公、ケン ロウの低い声  
人間の時は声優のような声)

スペルカード (これから出てくるやつ)

裂拳「八つ裂き」

破拳「バスターインパクト」

崩拳「粉碎の拳」

「龍拳」

スペルカード外 (これから出てくるやつ)

龍の一撃



龍の裂蹴

龍の怒り

作者「まあ、これからが多いですね。…え？　だったら物語が進んでからにしる？　…」  
無理ですね。まあ説明は早い方が良いじゃないですか。どちらにせよ、説明しなければ理解しきれない部分があるので。」

ではまた次回。

拳咲 龍神のプロフィール（後書き）

龍「結構適当じゃないか？作者さん。」

作者「失礼な！これでも頑張っている方なんですよ？」

龍「まあいいや…今回は俺が  
で大暴れ？するのかな？じゃあ、  
また。」

### 第3話 銀髪剣士 参上！（前書き）

この第3話タイトルでわかった人も多いと思います。  
なぜ行くのか…それは…

ではごきげん。

### 第3話 銀髪剣士 参上！

前回の俺は…

紅魔館で美鈴さんに助けてもらい、中にはいったらメイドの咲夜さんに会い、訳を説明したらお嬢様のとこへ行く事になり…

そしてそのお嬢様が妹と遊べと言い、出て来たのは赤い服の少女で、その少女はなんと吸血鬼！考える暇も無く連れていかれバトルするはめに…

だけど…

気がついたら少女は倒れていた。

俺は龍になっただけらしい…

龍「俺が…龍に？」

レ「ええ。」

龍「龍って言うと、あの…」

それよりも、何で俺は龍になった？

そう言えば4歳の頃、婆ちゃんが俺の先祖は龍神様とか言ってた気が…  
婆ちゃんはすごい霊能力者だったそうだし、もう居ないけど…  
その龍神様が、俺の体を借りて出てくるって事か？

龍「俺の…先祖…」

レ「龍神、あなた、良かったらここで執事として働かない？」

龍「…いや、ありがたいけど、俺はこの力を…力の意味を知りたい。」

レ「そう、残念だね。けど…」

龍「けど？」

レ「あなた体に流れる龍の血、少し味見させてもらってもいいかしら？」

龍「…ぎゃあああああ！！！！」

レミリアは舌なめずりをしながら近づくなか、俺の意識が…また…

ヴォーン!!!

龍「ウヲオオオオオオ!!!」

さて、血を吸われるのは俺もごめんだ。  
壁をブチ破るか…

天の視点

龍「破拳「バスターインパクト！」

龍神は拳を前に突き出し、壁に向ける。  
そして…

龍「ふんっ！！！！」

バオン！！！！

ズガーン！！！！

龍神の放った拳気が壁をブチ破る。

レ「？」

龍「じゃあな！」

スバツ

龍神は空いた壁に向かって飛びだした。

龍「ふゝ、久しぶりの空だ…そうだ、どれくらい高く飛べるかやってみるか。」

龍神はニヤリと笑いながら…



龍「そら？」

上へ物凄いスピードで飛ぶ。

龍「いいねえ久しぶりだ！この感触。」

龍神が飛び続けていると…

龍「ん？」

世界が変わり、長い階段が見えた。と…

ヴォーン！！！！

龍「…あれ？ここは？」

元の龍神に戻った。

龍「レミアアいないし…おかげで血を吸われずにすんだけど。」

龍神はホッとする。

龍「…何この階段？」

龍神は長い階段に気がつく。

龍「やめてよ…鬼畜過ぎるよ」の階段。」

凄く嫌がる龍神。と…

ヴォーン！！！！

龍「あれ？また？」

バアーーン！！！！

龍「…入れ替わりが激しいな…全く。」

龍神はため息をつく。

龍「さて、走るか！」

その言ひと…

ビュオン！……！！

龍神は一瞬で階段を登りきる。

龍「なんだ…もっとあるかと思っただぜ。」

？「何者？」

龍神が振り向くと、そこには銀髪の少女が立っている。少女は二本の刀持っている。その内の一本を構える。

龍「ああ、ちょうど良かった。ここどこかおしえ」それ以上近づいたら、斬る！」「はい？」

少女は龍神を敵として見ている。

龍「誤解していないか？俺は単に「黙れ！バケモノ？幽々子様には指一本触れさせない？」ありゃ？」

少女は刀を抜き、龍神に斬りかかる。

龍「話しを聞け……」  
「龍の裂蹴！」

龍神は刀などお構いなしに、神速の蹴りをたくさん放つ。

ズバババババツ!!!

? 「蹴り? なら...」

「断命剣「冥想斬」」

少女は刀にオーラを纏わせ、刀を振る。

ガガガガガツ!!!

龍神の蹴りと少女の斬撃がぶつかる。  
そして...

ガキーン!!!

龍神の蹴りが少女の刀をはじく。

? 「くそっ!」

龍 「ふんっ!」

スバッ

龍神は少女の顔面に拳を放つ。  
そして寸止め…

? 「ひっ!」

龍 「話しを聞け…俺は単にここはどこか聞きたいだけだ。」



？「…ここは…冥界です。」

龍「じゃあこの屋敷は？」

？「白玉楼です。」

龍「お前は？」

？「私は魂魄　妖夢　（こんぱく　ようむ）　です。あなたは？」

龍神は拳を下げる。

龍「俺は拳咲　龍神…だ。」

妖「龍神ですか…名前通り、龍ですね。」

龍「本当はこの俺じゃない。」

ヴォーーン!!!

龍「本当は…」

妖「？」

龍「…あれ?…うわ!き、君は?」

妖「・・・」

妖夢は言葉を失う。

妖「あの〜…あなたは？」

龍「俺は拳咲　龍神。」

妖「なるほど…」

龍「え？」

少女説明中…

龍「龍になっちゃったか〜…記憶が残っていればな〜。」

妖「しかし、あなたは何故、龍になれるのですか？」

龍「よくわからないけど…俺の先祖が龍の神様だからだと思っ。」

妖「転生ですか…」

龍「多分ね。でも、ここに来る前は普通だったんだ。」

？「妖〜夢〜どこにいるの〜？大変よ〜！」

妖「幽々子様！」

龍「お詫びで何か手伝える事があればなんでもするよ！」

妖「では、是非お願いします！」

続く…

**第3話 銀髪剣士 参上！（後書き）**

はい、次回はアレですね。

そして龍神の龍の強さは半端ないですよ。  
ひよっとしたら…

ではまた次回。

#### 第4話 白玉楼の亡霊少女（前書き）

龍神の変身条件を考えました。

身の危険が迫ると変身。

強い拒絶を感じると変身。

怒りが頂点に達すると変身。

自分の意思で変身。

無条件で変身。

これくらいです。

ちなみに龍の強さは神以上なので、ただのパンチでも妖怪が瀕死状態になる程です。

自分で言うのもあれDeathが…まさしくチートDeathね。  
ではございませう。

## 第4話 白玉楼の亡霊少女

前回の俺は…

レミアに血を吸われそうになり、叫んでいたら…

そこから記憶が無い…

なぜか俺は超バカ長い階段の前に居た。

そこからまた記憶が…

でも変身する瞬間は残っている。あの時俺は青い炎に包まれていた。

そして気づいたら銀の髪 of 少女が居た。

彼女は俺と闘ったと言っていた。

彼女と話しをしていたら女性の声が出て…

妖「幽々子様！いかなされましたか？」

妖夢は声を張り上げ、心配をする。

？」「お腹が空き過ぎて死にそうよー！」「

妖「・・・」

龍「空腹かよ・・・」

女性はお腹を押さえて駄々っ子ように騒いでいる。

妖「少々お待ちを・・・」

龍「…あの〜、幽々子様…ですか？」

？「あら、あなたは？」

龍「拳咲 龍神です。」

？「龍神…良い名前ね。私は西行寺 幽々子



(わんぱく) (ゆめ) よ。」

龍「一つ聞いて良いですか？」

幽「何かしら？」

龍「その帽子の上に巻いている物は？」

幽「あゝこれ？これは私が亡霊だからよ。」

龍「亡霊？えっ！死んでんの？」

幽「ええ、そうよ。」

龍「…にしても透けてない。」

幽「温かいし、触る事もできるわよ。」

幽々子さんは手を差し出す。  
俺は触ってみる事にした。

龍「本当だ……」

幽「ね。…クンクン、良い匂い……」

妖「幽々子様、お食事ができました。」

幽「妖々夢々！もう、大好き？」

妖「ありがとうございます。」

幽々子さんはそう言うと、テーブルに置かれた食事をガツガツ食い始めた。  
相当腹が減ってたようだ。

龍「すごい食いつぶりだな…妖夢大変だろ。」

妖「いいえ、私はこの状態がいつまでも続けばいいなと、思っています。」

龍「へ〜。」

幽「あっ！龍神君、あなたも食べていったら？」

龍「えっ？いや〜でも…。」

幽「遠慮しないで。私はあなたに興味があるわ。それに、龍神君は妖夢を倒したそうじゃない。その実力、後で確かめさせてもらおうわ。」

龍「…え？」

幽々子さんは凄く真剣な目で俺を見る。  
俺と闘う？何を言っているんだ？俺は闘えない…  
まさか…俺の中の龍神と闘うのか？  
マジで何なんだよこの世界。  
もうウンザリだよ…

確かにそう思いたくなるのも無理ないかもな。だが…このまま此処にいるのも悪くないと思うが？

お前…誰だよ！

俺はお前だ。

正確には、お前の言う龍神様が俺だと言う事だ…

…お前が、俺のもう一つの姿…  
龍だったのか？

まあ、この世界に来てからだ、急に俺の力が強くなったんだ。だから俺はお前と入れ替わる事で、外に出る事ができる。

考えてみれば、お前はいつも俺のピンチで入れ替わってたけど…

たまたまだ…出ようと思えばいつでも出れる。ただ単にお前に死なれたら俺も困るからな。危ない時などに出ている。

お前の気分次第でもあるのか…

まあ、そうだな。  
今ちようどその時だ、どうする？

…俺の身体を使え。

よく言った。

龍「・・・」

幽「龍神君？」

妖「龍神さん？」

天の視点

龍神は立ち上がり、裸足で庭へ出る。

幽「・・・」

妖「まさか……」

龍「ふんっ！」

ヴォーン！！！！

龍「ウウウオオオオオ!!!」

ヴァー……!!!

龍「さあ、お望みの姿だ……」

幽「ウフフ……愉しめそうね。」

続く……



#### 第4話 白玉楼の亡霊少女（後書き）

はい、次回は戦闘ですね。

今回は話しだけになってしまいました。

いや、しかし寒いですね。

みなさんも身体には気をつけてください。

風邪気味の僕が言うのもあれですが…

ではまた次回。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7874x/>

---

東方龍神録

2011年10月28日08時03分発行